

ネット社会に生きる子供達の育成

校内ネットワークの有効利用と情報教育

平成14年6月20日(木) 5校時

第4学年1組 31名

授業者 田代益男

プロジェクト名 罅っ子プロジェクト~ 御岳大百科を作ろう

プロジェクト計画 (「総合的な学習の時間」 30時間扱い+)

情報教育

- ・伝言ソフトを使って、相手を意識して正しく伝えたいことを送る。
 - ・キーボードのローマ字入力
- ・調べたい情報を集める。
 - ・図書・パンフレット利用
 - ・インターネット
 - ・先輩にインタビュー
 - ・舟渡小ホームページ
 - ・12年度御岳大百科
- ・正しい情報を集めようと心がけ、ホームページの内容を鵜呑みにしない。
- ・取材する
 - ・デジタルカメラ
 - ・デジタルビデオ
 - ・メモ
- ・相手にわかりやすいようにまとめ、プレゼンテーションする。
- ・相手を尊重しながら意見交換する。
- ・ホームページ作成の方法
- ・情報を発信するために気をつけることの理解。

知る 2時間

御岳林間学校って何

先生から説明を聞こう

- ・知りたいことは何だろう
- 6年生に質問しよう。(本時)
- ・伝言ソフトを使って
- ・どんな体験をしたのかな



わたしたちの
東京 4時間
東京の地形
東京の地図

調べる 8時間

御岳ってどんなところ

情報を収集する。

- ・パンフレット・インターネット・新聞
- ・先輩に聞く(インタビュー)
- 情報交換をする
- ・グループ発表
- 課題作り・グループ作り
- ・現地で何を調べてくるか

取材する

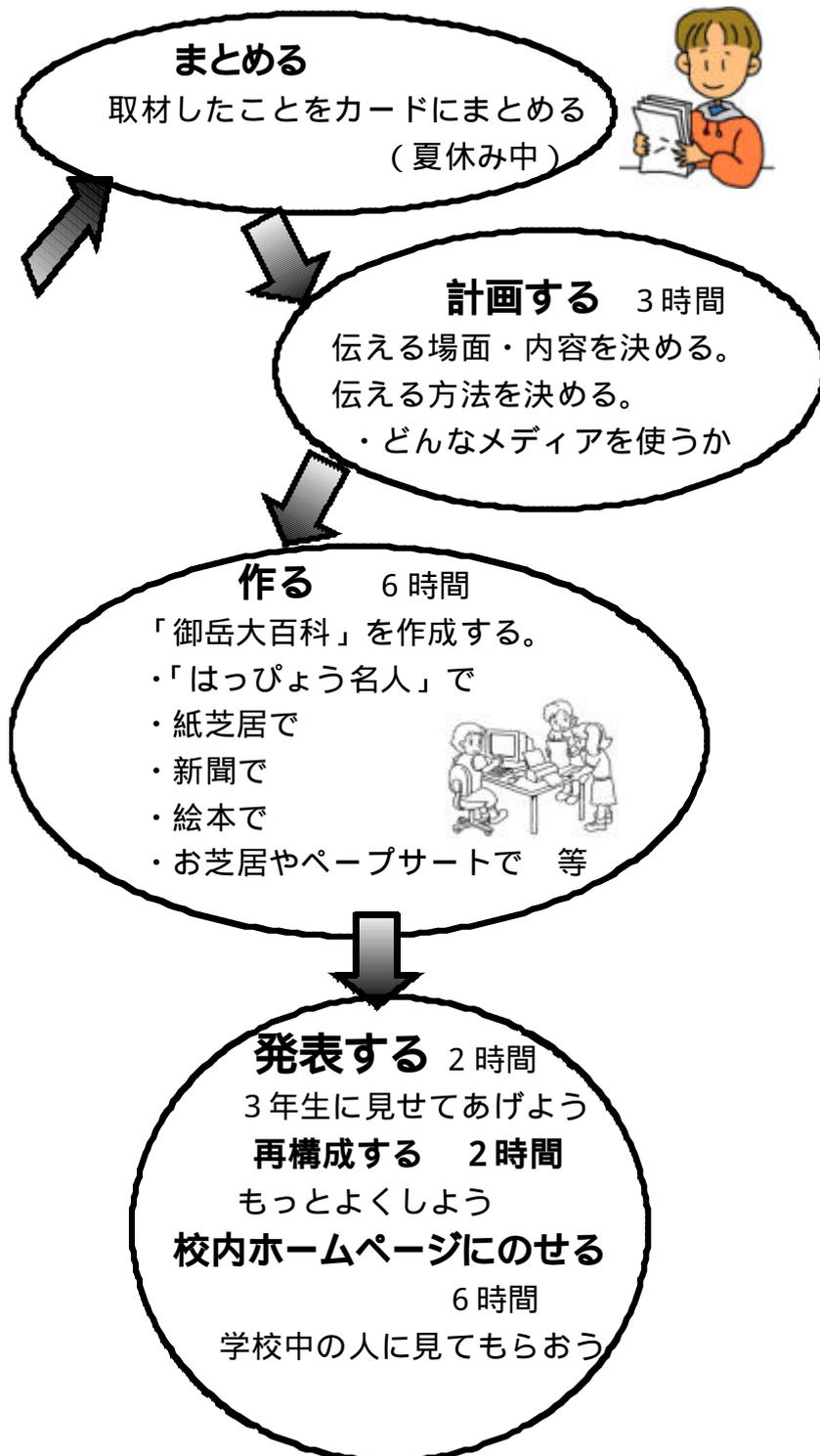
御岳林間学校へ行って来よう
デジカメやメモで取材



プロジェクトの目標

夏休みに行く御岳林間学校を素材にし、施設や自然についての取材・調査などを行い、自分たちの舟渡町と比較しながらそれぞれの特徴やよさをまとめて、いろいろなメディアを利用して伝えることができる。

自分の課題に対して、よりよい方法で調べ、わかりやすくまとめられる。
必要な情報を選んだり、質問の仕方やマナーを身につけたりできる。



支 援

調べることを見つけるための支援

- ・御岳についての地理的理解をさせる。
(社会科)
- ・先輩の調査・作品を参照させる。
- ・見つけにくい場合は、テーマ例より参照させる。

調べるための支援

- ・本・パンフレット・HPをできる限り用意する。
- ・意欲的・協力的に進められるようテーマ別グループをつくる。
- ・計画表を作る。
- ・多様な情報機器を使って調べられるように準備する。

まとめるための支援

- ・パソコンでは「はっぴょう名人」を活用する。
- ・パソコン以外のメディアのよさも教える。

発表するための支援

- ・テーマごとにまとめ、発表させる。
- ・いろいろなメディアを使った発表方法を提示する。

関心を広げ意欲を継続させるための支援

- ・3年生に発表を見てもらう。
- ・ホームページ化することを目標とする。

6年生に聞いてみよう

本時のねらい

コンピュータの伝言ソフトを使って、6年生に質問を送り、知りたい情報を得ることができる。

インターネットを使って、御岳関係のホームページを閲覧できる。

相手を尊重したメールの文章や内容を考え、責任を持って送信しようとする態度を育てる。

本時の展開

児童の活動・支援	機器操作等
<p>*今日のめあてを確認する。 「6年生に失礼のないように、メールを送ろう」</p> <p>*質問内容の下書きを書き、2人1組で内容を点検する。 ・わかりやすいか ・失礼はないか</p> <p>*順番に質問を送り、返信をメモする。 *お礼のメールを送る。 ・不適切なメールがあれば、その場で全体に指導する。</p> <p>*次のグループが送信する。 (計8回行う)</p> <p>*もっとくわしく調べてみたくなったことを発表する。</p> <p>*インターネットで御岳関係のページを調べる。 ・「山楽荘」のページを、まず自由に見させる。 ・わかったことをカードにメモさせる。</p> <p>*次時からの活動計画を確認する。</p>	<p>クラスを2つに分け、教室に待機している、6の1と6の2にメールを送る。</p> <p>伝言ソフト「Ip-messenger」を使う。送り先を間違えないように。 プロジェクターで児童画面を投影</p> <p>同時に2グループ送信</p> <p>学習リンクの「移動教室・遠足」のページを使用</p> <p>・ポートフォリオで確認</p>

本時の授業の位置づけ

- ・6年生への質問は本来ならばメールを使うまでもなく直接聞きにいけばすむ。
 1. このソフトを使えば、休み時間などに簡単に他クラスとのやりとりができることを理解させる。
 2. 今後、他校にメールを送る前の疑似体験としての学習として位置づけた。

研究協議会記録

自評

- ・メールを使わなくても聞きに行けばいいのではないかと言う声もあったが、校内、学校間でのメールのやりとりをさせたいと考えているので、基本的なエチケットやルールを学ばせるのにいいと考えた。
- ・ローマ字を習い始めているので、ローマ字入力の練習にもなると考えた。
- ・指導したことは、
メールの書き出しの定型を知ること、例えば、いきなり質問はしない
メールを打つ時の注意、たとえば、必ず名前を入れる、調べれば分かることは聞かない、である。
- ・6年生がすぐに返事をくれたので、子ども達のキーボード入力の励みになると思う。
- ・ホームページなども調べさせたかったが、時間がとれなかった。
- ・指導案は、見開きでみてほしい。発表会を念頭に、できるだけ文字を多くしないで、読んでもらえないような指導案は、やめようと考えた。

協議

1 , 校内ネットワークについて

- ・4年生は、基本操作、ローマ字入力、メールの編集がしっかりできていた。
- ・6年生も、楽しそうに返事を書いていた。質問事項には集まって、「こうだったね。」などと相談して返事を書いていた。相手が4年生だということで、漢字変換をしないように配慮しているのもよかった。
- ・メールが返ってきたとき、返事をくれた子の名前をととても気にしていた。そして名前をみてどんな子なのかというように相手を意識して文を読んでいてよかった。
- ・6年生の教室まで行くのは遠いと感じた。瞬時にやりとりができるというのは、校内ネットワークのすばらしいところと痛感した。
- ・今回6年生と行ってよかった。同じ4年生同士だと言葉遣いがきちんとできなかつたと思う。高学年に対してのマナーも知ることができた。
- ・校内ネットワークがあると便利である。わすれもののお知らせなどだけでなく、授業の様子などを終わってすぐに担任に知らせることができ、次の時間の励みになっている。

- ・総合的な学習としてのパソコン、情報教育としてのパソコン、技術としてのパソコンがあるのではないかと。校内ネットワークを使って、今回のように他の学年でも計画的に行ったり、兄弟学級などを作って、学級のつながりの1つとして日常的に利用したりすることにより、学校全体のつながりができて行くのではないかと。
- ・この子達に今どんなところで校内ネットワークが必要なのかを考えたとき、何もでてこなかったが、実際に必要な年代になる前の準備なんだと思った。通信方法が電話などと違って知っている大切さがある。
- ・「ネチケツ」の指導は、「エチケツ」の指導から始めなければいけない子ども達。
- ・子ども達の生活の中に入っているパソコン。子ども達の中で新しい使い方が出てくるかもしれない。
- ・メール文を形式通りに書いたり、漢字混じりのメールを読んだりすることで、国語の学習の大切さを子ども達が再認識していた。

2 , リテラシーについて

- ・中学年のめあて・本時のめあては、4年生の実態に合っていた。3年生も4年生にならって出来るようにしていきたい。
- ・「3年生からローマ字入力を」ということで行わせているが、文字パレットで入力している子も多く、どうやって4年生につなげていけるかと思っている。キーボードを使えるようになればもっと利用できるだろうと思う。
- ・キーボードを使うことについては、初めはもたもたしてしていたが、急速に上達した。

指導・講評

聞きにいけばよい、時間がかかるなどで校内ネットワークの意義が見いだせないなどもあるが、それでも尚かつ、ネットワーク社会に子ども達が生きていくために、小学校としてやらなければならないことを見いだしていく必要があることを、11月の授業で、先生方に訴えてほしい。

本校の研究テーマに対しての、最初の授業としての本日の授業のすばらしさは、次の3つの要素で授業が成立していることである。

校内ネットワークの利用を通して、Eメールを教室の中で使う意味がはっきりしてきた。

子ども達がものを考えたり 作ったりするときに、メディア (道具だて) がそれらを引き出し していくことがわかった。

校内ネットワークを有効利用していく方向性がわかってきた。

について

聞くことには、調べれば答えが解ること(一般的なこと、誰が答えても同じこと)と個人でなければ答えがでないことがある。また情報の信憑性という問題もあるので、なんでもインターネットで調べれば良いわけではない。一般的なことは別の調べ方もある。

パーソナルな情報のやりとりを記録として残しておく。オリジナルなものを複数作れることがデジタルなものの特徴である。

(例) 本時の御岳の「怖いもの」のやりとりのように、「こわかったよ」「つらかったよ」「おもしろかったよ」などの子ども達の思いの共有ができる。それで4年生が御岳に行くことの意義を続けることができる。

連絡や子ども達にとっての利便性を見いだすようになってきていて、校内ネットワークの意味を持っている。

異学年交流や兄弟学級などの場合でもAアンドゥAのやりとりで個が対応できる。

(例) 「一輪車の乗り方を教えてほしい」「平泳ぎの足を教えてほしい」などをメールで呼びかけて、できる人が教えてあげる。

これらから新しい学校共同体づくりができる。

ネチケットを教える必要性は、自己責任を身につけることを教えることである。Eメールは個から発信するもので、自立した学びをすることにつながる。

について

道具を使うことで目に見えるものになってくることができる。

(例1) 不登校児童とのメールのやりとりで児童が見えてくる、先生がみえてくる、クラスがみえてくる。身体障害のある人とのメール交換で、障害をないものとして接することができる。可視化できることは公になれるということ。

(例2) 「4年生では漢字は難しいだろうからひらがなにしよう。」と作ったメールには、心の温かさが見える。

について

- ・直接会うことの大きな価値はあるが、メールの価値は時間、場所をなくすことにある。
- ・個人的なやりとりだけでなく、一般化することもできる。

(例) 4年生から各学年へ

- ・ホームページは見るのが目的、メールは何かリアクションがほしいときのもの。

【問い】低学年のネットワークを使った実践は、どのようにしたらよいか。

【答え】低学年はいろいろな機器をマッチングさせてやる方がいい。またオリジナルなものが複数作れることを利用して、1つの物からいろいろなバリエーションが作れることを知るのもよい。

(例) 同報システムを使つての「郵便屋さんごっこ」、ネットワークごっこで、知る。体験する。